

吉永130周年の歴史にせまる!!! (常願寺～今の吉永)



発行者
吉永第二小学校
6年1組

2022年

11月22日 発行

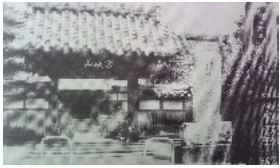
山本和作 『巖谷小波句碑建立記念誌』大東印刷 平成11年11月11日

パート一 常願寺&善光寺

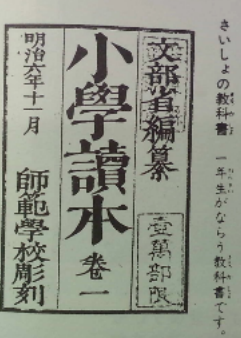
実は常願寺は名前が変わっている!!それは〇〇舎。名前を変えた理由は…

吉永第二小学校の出発点は、「常願寺」(資料一)です。常願寺は嘉永元年(明治五年)常願寺という名前の寺子屋ができて、吉永北地区の人たちが通い始めました。

明治は八年、間門村・鵜無ヶ淵村・桑崎村などの七つの村が通えるように、「七邑舎」が設立しました。七邑舎は、常願寺の中に勉強するところがありました。そこでは、教科書を使って漢字の読み書きをしていました。(資料二)
最初、何の不満もなく子供たちは楽しく通っていましたが、ある日、桑崎村や石井村は、七邑舎まで遠かったため不満を持ち始めました。そんな時に大活躍した人は、「佐藤さんたち」です。佐藤さんたちは、今の山梨県甲府市からきて、桑崎の善光寺に「叢中舎」(資料三)を設立させました。(明治九年)やがて、七邑舎も叢中舎も閉鎖してしまい、新しい学校ができました。



資料二



資料三



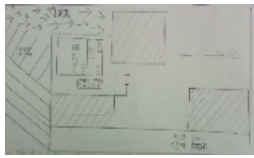
資料七



資料六



資料五



資料四



パート二 修成舎

常願寺の七邑舎と善光寺の叢中舎が閉鎖して今宮村に吉永二小三つ目の学校ができました。その名前は「修成舎」(資料四)でした。

修成舎は、明治十四年にできてそのあとに修成学校という名前にかわりました。そして修成舎の分校が今泉小今宮分校がありました。今宮分校は、のちに今泉小神戸分校となり神戸小になっていきました。

パート三 鵜無ヶ淵・観音堂&吉永第二小学校

次に紹介する学校は、鵜無ヶ淵観音堂(資料五・資料六)です。明治二十五年に建てられた。観音堂は今の学校に比べかなり小さく、初代目の、常願寺(七邑舎)よりも小さく見える。学校平面図をみても、男便所、女便所ともに一つしかなく、教室も、一つしかないように見える。体育館なし、明治時代に体育の授業はこの学校で行われていたのか。この学校で、何人の生徒が勉強できたのか。ましてや、この教室で明治時代の子供達は満足していたのか。

次の学校は吉永第二小学校(資料七)、今現在の学校。観音堂に比べ、かなり校舎が広く、教室の数もとても多い上、教室単体の広さも中々ある体育館もあり、体育館倉庫も充実していて、ボール、跳び箱、マット、平均台などが置いてある。運動場も、かなり広く、遊具も結構充実している。僕たちはとても勉強しやすい学校だと思っている。

吉永二小の今

今の吉永二小は、全校生徒数がとても少なくなっている。今年で、全校生徒数が百人をきった。しかし、全校生徒の仲が良く、自然も豊かなこの学校で、のびのびと学校生活を送っている。今年度は、運動会で、全校ダンスもすることができた。また、六年生は、この学校やこの地域の魅力を広めたいと考え、学校のホームページ上に、六年生ページを開設した。



編集後記

今までは、常願寺が七邑舎という名前に代っていたということが分からなかった。昔の小学校の教科書も今のと違って絵とかカラーじゃなかったと思うから。今の教科書をもっともっと大事にしたいと思った。

常願寺の七邑舎と善光寺がなくなって修成舎ができたからもし修成舎が建てられなかったら吉永第二小学校の歴史はそこで終わっていたから修成舎が建てられてよかったなと思いました。

同じはずの学校でも、かなり小さかったり、大きかったり、大きさがとても違っていたり、寺だったり現在公園だったり、いろいろな種類の学校がありました。中でも観音堂は、学校というより、倉庫のような大きさだと思いました。どんな環境でも、しっかり勉強のできる過去の学校で勉強していた子供達がすごいと思いました。